

**安心して暮らせる
まちづくりをめざして**



杉山 千春 議員

問 歩行者、自転車、自動車が安全に共存するまちづくりが求められている。サイクルシティーをめざして、市の道路整備の現状と計画はどのよ



うになっているのか。

答 知立市の現在の道路事情は道路幅等のこともあり、厳しいものがある。新規の区画整理においては可能な限り、自転車、歩行者専用道路の充実を図りたい。

問 夏の電力対策として、市役所内も節電マニュアルをつくり、徹底されつつあるが、熱中症や体調を崩す来庁者・職員への対応はどうか。

答 屋内ということもあり、心配ないと思うが、気をつけて対応したい。

問 逢妻浄苑に関する検討委員会での検討事項と豊明市との話し合いの進展はどうか。

答 5月19日に豊明市の事務局との話し合いをもった。次回7月8日にもつ予定。検討委員会では維持管理費と使用料金の検討もおこなっている。

問 住民と行政との協働で支え合うボランティアポイントの制度化に対してどのように考えるか。

答 現在、ボランティアポイントの研究検討をしている。

防災対策について



明石 博門 議員

問 災害時の避難所は、女性の視点が考慮されているか。

答 避難所開設時、職員2名中1名女性が配置されており、相談対応可能と考えている。

問 防災計画には、女性が参画しているか。

答 今後、計画変更の際から、参画するようにしていきたい。
問 災害時、オストメイト(※)



知立市中央公民館オストメイト専用トイレ

の支援体制はどうか。

答 支援体制はとれていないが、装具の供給は、医療機関との協定で対応していきたい。

問 災害時要援護者支援制度への登録を、もっと積極的に推進してはどうか。

答 町内会に名簿を出し、地域で要援護者を支援していく。
問 罹災証明書発行、義援金交付、救済物資の管理、仮設住宅の入退去等、一元的に管理できる無料の被災者支援シ

ステムを、導入してはどうか。

答 24年4月にシステムの稼働ができる予定。

問 小中学生に、命の尊厳や人を助ける教育となる救命講習を段階的实施してはどうか。

答 消防職員によるAED等を含む実習をやつていきたい。
問 自分の命は自分で守る、自分が助かってこそ人々を助けられる、防災士の育成を、どう考えるか。

答 防災意識の向上になる。

※ オストメイト 臓器に機能障害を負い腹部などに排泄のための開口部（人工肛門・人工膀胱）を造設した人